

今夏の電力需給状況と節電のお願いについて

2012年5月18日
北海道電力株式会社

当社は、安全確保を大前提に、1日も早い泊発電所の発電再開に向けた取り組みを進めております。

しかしながら、仮に泊発電所の発電が再開されない状況が続いた場合、今夏の電力需給は極めて厳しい見通しとなります。

本日、エネルギー・環境会議で電力各社の節電目標が提示されましたが、以下の通り、節電のお願いをすることといたしました。お客さまには大変なご不便とご迷惑をおかけしますが、節電へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

1. 今夏の供給力の上積み

これまで、昨年度冬と同様の対策として発電所の補修時期の調整、自家発電設備をお持ちのお客さまからの電力購入の取り組みを行いましたが、今夏の緊急対策としてさらに緊急設置電源の導入や火力発電所の増出力など可能な限りの対策を検討し、合計23万kWの供給力の上積みを行いました。

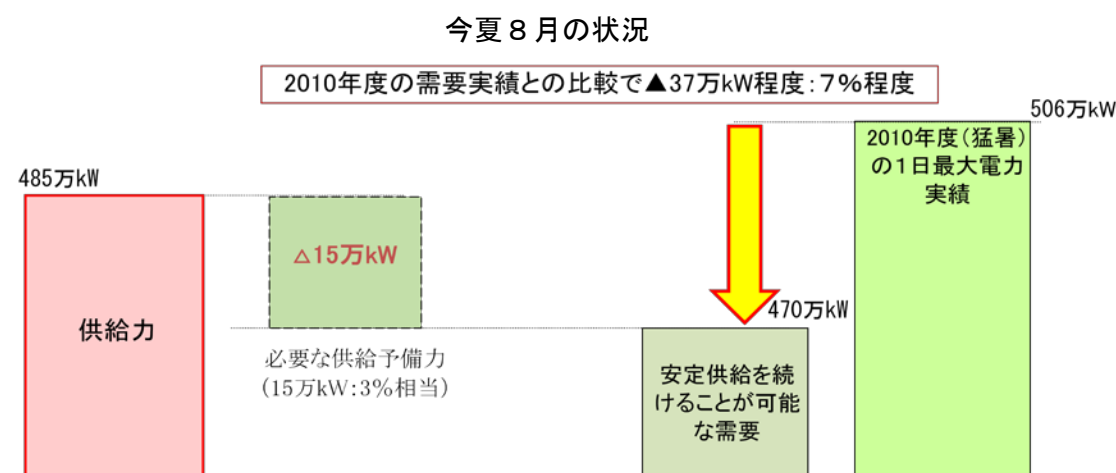
しかしながら、水力の新冠発電所の事故停止などもあり、今夏の供給力は昨年11月に国に報告した供給力と比べた場合、計12万kW程度増加の485万kW程度となる見込みです。

	供給力(8月)	主な実施内容
昨年11月エネルギー環境会議公表値	473	補修調整(+25)
昨年度冬の実施と同様の対策	476	自家発購入(+8) 補修調整(+3) 水力発電所貯水池の高水位運用(+5) 新冠1号機の計画外停止(-10)
今夏の緊急対策	485	緊急設置電源の導入(+7) 知内発電所の増出力(+1)

2. 需給ギャップの縮小に向けて

供給力485万kWの場合、需給運用上、最低限必要な3%程度の予備力15万kWを考慮すると、電力の安定供給を続けていくためには、電力需要を470万kW以下に抑えていただくことが必要と考えています。

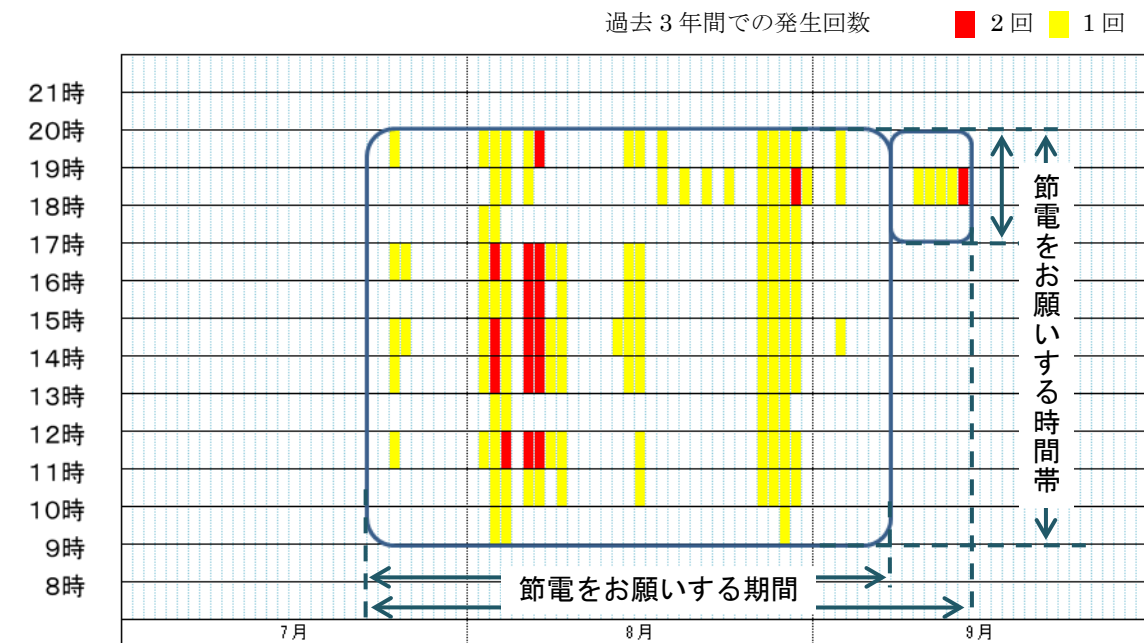
泊発電所が今夏も再起動しない場合には、2010年度猛暑の需要実績から7%程度の電力需給ギャップの縮小が必要になります。



3. 時間帯ごとのピーク需要の発生状況

過去3年間の実績では、ピーク需要*となるのは、7月下旬～9月上旬(7/23～9/7)については9時～20時にかけて、また、9月中旬は、17時～20時(点灯時)となっています。このため、これらの時間帯について節電をお願いするものです。

ピーク需要の各時間帯ごとの発生回数(過去3年間)



* 各月の供給力に対して、3%(15万kW)の予備力が確保できない需要。各年度の曜日が一致するように調整を行っている。

4. 節電のお願いについて

昨年度は、東日本大震災を受け、既に節電に取り組まれたお客さまも多数いらっしゃいます。お客さまによって、節電への取り組み程度が異なると考えられることから、東日本大震災以前である2010年(猛暑)の実際の1日最大電力「実績」と比べて7%以上の節電にご協力くださいますようお願いいたします。

お客さまには大変なご不便とご迷惑をおかけすることとなりますが、お盆期間(8月13日から8月15日)を除いた次の期間の平日について、ご協力くださいますようお願いいたします。

節電をお願いする期間	節電をお願いする時間帯
7月23日から9月7日まで	9時から20時
9月10日から9月14日まで	17時から20時

火力発電所の計画外停止など不測の事態が発生し、さらなる節電をお願いしなければならない状況となった場合は、改めてお知らせいたします。

以上